



# 啐 啄 同 時

平成 27 年 11 月

校長室だより

## 学校教育目標 「大好き芦田 大好きみんな 大好き自分」

学校から眺める山々も赤や黄に染まり、秋の深まりを感じる今日この頃です。芦田っ子たちは 21 日(土)の音楽会に向け、楽器練習等に「寸暇を惜しんで」取り組んでいます。

「寸暇を惜しんで」…と言えば、本校にも「二宮金治郎」の像が玄関前にあります。今月は、この「二宮金治郎」について書きたいと思います。

## 芦田小学校の「二宮金治郎」は…何をかついでいる？

先日、ある保護者から「氷上町の A 小学校の二宮金治郎は「柴(しば)」をかついでいるのに、芦田小学校の二宮金治郎は「薪(まき)」をかついでいるのですよ」と教えて頂きました。そこで話題になったのは、「山へ行って取ってくるのなら、やはり「柴」でしょうね。像として、薪と柴どちらが作るのが難しいか……やはり、柴でしょうね」と言った会話をし、芦田小の二宮金治郎像が A 小学校のものより格下に思えてしまいました。



芦田小の金治郎

そこで、早速、A 小学校へ見学に行きました。意味が分かりました。

確かに、A 小学校のは柴ですが、ブロンズで作られており、芦田小学校は…「御影石」だったのです。

石ですから、尖がった柴は彫れないのです。それが分かったら、芦田小の二宮金治郎もなかなかよく彫ってあるなど感心して見えています。HP 等で調べると、「薪(まき)」ではなく、「薪(たきぎ)」となっていました。



A 小学校の金治郎

## 二宮金治郎の生い立ちについて

二宮金治郎(1787-1856)、本名は尊徳(たかのり)といい、江戸時代後期、相模国足柄上郡栢山村(現在の神奈川県小田原市)の百姓・利右衛門の長男として生まれました。通称は金治郎(きんじろう)ですが、一般には「金次郎」と表記されることが多いようです。また、「尊徳」は正確には「たかのり」と読みますが、私たちは「そんとく」と読んでいることが多いようです。

金治郎が 5 歳の 8 月 5 日、南関東を襲った暴風で酒匂川の堤が決壊し、金治郎の住む東栢山一帯も濁流に押し流され田畑は砂礫となり、父の田畑も流失してしまいました。

14 歳のとき父・利右衛門が死去、2 年後 16 歳で母・よしも亡くなり、尊徳は伯父・万兵衛の家に身を寄せることとなりました。伯父の家で農業に励むかたわら、荒地を復興させ、また僅かに残った田畑を小作に出すなどして収入の増加を図り、20 歳で生家の再興に成功するのです。

生家の再興に成功すると尊徳は地主経営を行いながら自身は小田原に出て、武家奉公人

としても働きました。奉公先の小田原藩家老・服部家でその才を買われて服部家の財政建て直しを頼まれ、見事に成功させたため、小田原藩内で名前が知られるようになるのです。その才能を見込まれて、小田原藩主・大久保家の分家であった旗本・宇津家の知行所であった下野国桜町領（現在の栃木県真岡市、なお合併前の二宮町の町名の由来は尊徳である）の農村の復興を任せられ成果を上げます。その方法は「報徳仕法」として他の模範となるのです。「報徳」とは、「私利私欲に走るのではなく社会に貢献すれば、いずれ自らに還元される」という考えです。芦田小の金治郎像の下にも「報徳」の文字が刻まれています。

## 二宮尊徳像は どうして 全国の学校に建てられたのか……その理由？

その理由を調べると、少し残念な気持ちになりますが、昭和の軍国主義のなかで「至誠報徳」の教えが、皇民化教育のために利用され、修身の教科書で取り上げられたのです。そのため、薪を背負って歩きながら勉強している有名なスタイルの像が、特に昭和 10 年代に盛んに建立されました。芦田小学校は、昭和 8 年に寄付で建てられています。

戦後、軍国主義の象徴と考えられて撤去されたりしましたが、それでも、戦後、純粋に彼の業績や学問に向かう姿勢を奨励するものとして再建された像も多くあり、「**至誠報徳**」の教えが**現在にも生きている**ように思われます。

今では、なんとアメリカのロサンゼルスにもブラジルにも像があるのです。

「ウィキペディア」より参照

## 細見綾子 今月の俳句

でで虫が 桑で吹かるる 秋の風 昭和 7 年 25 歳作

故郷丹波は養蚕の地で、福知山へつづく山麓はずっと桑畑でした。作者が秋風の吹く桑畑を歩いていると、でで虫(カタツムリ)が桑の幹にすがりついているのを見つけました。枯一色のでで虫が秋風に吹かれているのを見て、『秋風にさらされているものは自分だけではなかった』と作者は言い知れぬ親近感を抱いたのです。この句が作られたのは昭和 7 年の秋で、昭和 4 年に夫を亡くし郷里に引き上げた作者は、つづいて母を失い、暗澹として過ごしているうちに肋膜炎になり、その療養中の作品です。

「細見綾子俳句鑑賞」沢木欣一編より参照

## 11月 芦田っ子の「きらり俳句コーナー」

第 15 回 青春俳句祭 入賞作品

優秀賞 夏休み 工作だけで 五日間 3年 芦田 悠平

入選 あつい日に うしもみみたれ べろだした 2年 足立 真奈

入選 朝6時 ぼくを待ってる 金魚たち 5年 西川 道也

芦田っ子 11月の俳句

いちょうはね ちらぱらちらら おちてくる 1年 小田 たいせい

ラグビーを 見に行くだけで じかたつ 2年 足立 ゆうご

弟が いわし雲みて よだれでた 3年 中山 珠那

モミジ落ち 雨がながびき しんみりと 4年 芦田 陽亮

初冬も おれは1年 Tシャツだ 5年 仙水 漣

気づかれず やまでこっそり 冬もみじ 6年 本田 智也

